

令和4年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	6	学校名	静岡県立浜松聴覚特別支援学校	記載者	教頭 寺田有美子
------	---	-----	----------------	-----	----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

① チーム対応力を高め安全・安心な環境を整備し、効率的、効果的な学校運営を行う。

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	<b>安心・安全な学校生活を送るための環境及び体制づくりの推進</b>	緊急時に対応できる教職員の対応力の向上と学校組織の構築ができたと答える教職員 100%（保健体育課）	A	A	
		災害や事故発生時に自らの命を守ることや事故が起きないように気をつけることができる児童生徒の育成ができたと答える教職員 100%（生徒指導課）	A	A	
		道徳や日常的な指導を通して、自他を大切にし相手を思いやる気持ちの育成を図ることができたと答える教職員 100%（生徒指導課）	A	A	
		学校経営予算の効率的な執行による修繕箇所の早期着手ができたと答える教職員 100%（事務部）	A	A	
	交通事故、不祥事根絶に向けた校内体制づくり	交通事故・不祥事根絶に向けた職員の意識向上ができたと答える教職員 100%（全職員）	A	A	交通事故や不祥事がおきかないための予防や注意喚起を行う。「0」の維持は難しい。

② 聴覚障害教育の専門性を発揮し、言葉やコミュニケーションを大切にした教育を実践し言語拡充と基礎学力の向上を図る。

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	<b>「きこえにくさ」とそれに伴う特性の理解と、コミュニケーション力、対応力、指導力の向上</b>	聴覚障害教育における専門性を発揮した指導力の向上ができたと答える教職員 100%（自立活動課）	A	A	コミュニケーション力がなくてくじける健常者もいる。しっかりコミュニケーション力をつけることが役に立つ。
イ	<b>発達段階に応じた言語力の獲得と基礎学力の定着を図る授業実践</b>	授業・指導を通して担当する幼児児童生徒の成長が見られたと答える教職員 100%（研修課）	A	A	教師が子どもの障害認識をどうとらえるのが大切。
		保護者が子どもとよりよく関わることができたと答える教職員 100%（支援部）	A	A	知的障害を有する子供ではないので、聴覚的（視覚

様式第5号

		言語の基礎となるあそびの充実ができたと答える教職員 100% (幼稚部)	A	A	的)見地から指導を行うことが大切。振り返りをきちんとすること、論理的に考えさせることが必要。
		基礎学力の定着を支える言語拡充ができたと答える教職員 100% (小学部)	B	B	
		・日々の授業実践における生徒の基礎基本の定着と深い学びが展開できる授業力の向上ができたと答える教職員 100% (中学部)	B	B	
ウ	読書活動を通じた言語力向上の基礎づくり	読書活動の推進による生活言語の拡充とコミュニケーション能力の向上ができたと答える教職員 100% (教務課)	A	A	
エ	<b>校内における専門性の向上と継承</b>	自らに必要な新たな知識や技能等が身についたと答える教職員 100%	A	A	

③ 個の実態を踏まえ、社会自立に向けて生活力を豊かにする自立活動を実践する。

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見	
ア	<b>社会自立に向けて必要な力の習得や向上を図る自立活動の実践</b>	日常生活の自立に向けた児童生徒個々の生活力の向上ができたと答える教職員 100% (寄宿舎)	A	A	・使えるようになってほしい言葉を掲示してあり、視覚情報を取り入れた丁寧な指導が培われている。 ・校内でも、大きい子が小さいこと遊ぶだけでも学びが深まる。	
		保護者と共に行う自立活動の充実ができたと答える教職員 100% (幼稚部)	A	A		
		自己の将来や夢につながる指導の系統性と内容の充実ができたと答える教職員 100% (小学部)	A	A		
			日々の生活や自立活動を通して、障害認識を深めるとともに、適切な進路を選択する力の向上につながったと答える教職員 100% (中学部)	A	A	・自分の良いところや得意なところを見つけ、子どもに伝えてやる事が教師には必要。
			補聴援助システムを効果的に活用できる技能の向上ができたと答える教職員 100% (自立活動課)	A	A	
			通級生が聴こえについての自己理解が深まったと答える教職員 100% (支援部)	A	A	外部支援の留意点は、聴覚障害の観点から簡単に結論付けて言わないことが大切。多面から見ていくという観点が必要。。
			進路指導・支援の内容について理解が向上し、進路指導に活かされたと答える教職員 100% (生徒指導課)	A	A	・卒業生や先輩聾者の話を聞くことで、卒業後のイメージを持ちやすく

					なる。
イ	<b>多様化する児童生徒の実態を的確に捉えた、学習指導や支援の充実と教育課程の見直し</b>	幼児児童生徒の目標、支援内容、実態等について、保護者と教員、また、教員間で情報共有することができたと答える教職員 100% (教務課)	A	A	上手に話せると「聞こえている」と思われやすいのため、「生きにくい」ことを共通理解しておくことが大切、
		情報機器の有効活用のために、使用のルールや、基本的な使用方法について指導することができたと答える教職員 100% (教務課)	B	B	

④ 自己理解を深め、地域社会の中でよりよく生きる力を養うための共生教育を実践する。

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	地域で生きるための力を養う共生教育の実践	地域の自然を活用できた。また、公共の場でのマナーの向上ができたと答える教職員 100% (幼稚部)	A	A	働き続けるため、地域で必要とされるためには、見えにくい障害だからこそ自分のことを上手に伝えられることが大切。
		個々の自己理解力、対応力の向上ができたと答える教職員 100% (小学部)	A	A	
		地域における行事への参加や同年代とのかかわりを主体的に深められる生徒の育成ができたと答える教職員 100% (中学部)	A	A	

⑤ 聴覚障害に関する地域のセンター的機能と校内支援の充実を推進する。

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	本校教育活動の積極的な発信	・本校に通う幼児児童生徒の実態や教育活動についての理解啓発ができたと答える教職員 100% (支援部)	A	A	
イ	<b>地域におけるセンター的役割と校内支援体制の充実</b>	校内及び地域の他機関との連携を図ることができたと答える教職員 100% (支援部)	A	A	

職員評価 A：十分目標を達成できた(80%以上)

B：概ね目標を達成することができた

C：あまり目標を達成できなかった

D：ほとんど達成できなかった(20%以下)